

あづまや造りの佇まいを残す街並み

東往来から

七尾への入り口

金沢方面から、七尾に向かって東往来といわれている国道159号線を車で走ると、途中羽咋市で鹿島バイパスと旧国道(県道七尾・鹿島・羽咋線)に分岐する。

快適に走行できる鹿島バイパスに対して、重厚感と温もりを感じる懐かしい通りの旧国道がある。

七尾への帰路を急いでいるときは鹿島バイパスを通るが、今日はゆったりとした気持ちで運転して帰りたいたと思ったときには、旧国道を通ることになっている。

中能登町から七尾市内に入りしばらく走って飯川町に入ると、最初に「飯川のヒヨドリザクラ」の看板が右手に見えてくる。今はまだ時期が早いですが、街中の桜が咲き誇っているころ、この「ヒヨドリザクラ」は、つぼみが膨らみ4月末に咲きはじめる、5月の下旬ごろに満開になる。

法京さん宅の前庭にある「飯川のヒヨドリザクラ」は、県指定記念物(天

然記念物)で、樹高6.3メートル、4本の株立ちになっている。花は、淡い紅色で直径4.5センチ、花弁の数は200〜400枚になる。

ヒヨドリザクラの前を過ぎると、道はゆるやかな下り坂が続く、カーブを描いていく。通り沿いには、あづまや造りの民家が点在し、落ち着いた雰囲気漂わせている。



飯川のヒヨドリザクラ



飯川神社の大ケヤキ

道をさらに進むと、右手にどっしりと構えている大ケヤキが目に入り込んでくる。まるで、道に身を乗り出すようにその木は立っている。誰もが、その迫力に目を奪われるだろう。

飯川神社の境内にある大ケヤキは、市指定記念物(天然記念物)で、樹高23メートル、胸高囲7.5メートル、樹齢は700年以上といわれている。町内の人々からは、神木として大切にされている。天狗が棲んでいたという伝説もあるほどで、大ケヤキにまつわる民話も多い。

道は、しばらくS字カーブを描きながら続く。家々の黒い瓦に太陽が反射し、キラキラと美しく光っている。

飯川町が発行し、その歴史を綴った「ふるさと飯川」によると、大正末期から昭和初期にかけてこのあたりは、銀行、郵便局、呉服屋、洋服屋、和菓子屋、料理屋、散髪屋、傘屋など、多様な業種の店舗があったようである。徳田地区においては、飯川町は中心地であった。昭和30年代から40年代には織物が栄え、青森など東北地方から女工さんが働きにきていた。その中には地元男性と縁あって、結婚した人もいたという。



通りの再生を願って

町会長の堀岡敏幸さんと、2年前まで徳田郵便局長を務めた堀岡則夫さんにお話を伺った。お二人は、同級生で子どものころは飯川神社前の道を遊び場に、缶蹴り、リレー、メンコなどいろいろな遊びをしたという。夏には、飯川神社で、盆踊りも賑やかに行われていた。しかし、昭和40年代に入って、経済発展により交通量が増加し始め、昭和60年に鹿島バイパスができるまでは、朝晩大変な渋滞で、歩行者が横断できないほどであったという。当然、騒音もひどかった。

おもしろい話を伺った。徳田郵便局は、明治37年飯川郵便局として開設しているが、昔、徳田駅で降り立ち多根に帰る人が、寂しい夜の雪道を一人で帰りにくかったので、郵便局に立ち寄り、自ら自宅に電報を打ち配達員とちようちんで夜道を照らしながら、一緒に家まで歩いたというエピソードである。

このあたりは隣接する江曾町も含め、あづまや造りの家が点在し、農村の風景と調和し、落ち着いた佇まいを見せている。その材料として、地元産の江曾アテが多く使われている。江曾アテは、古くは、北前船の帆柱やか山の部材などにも使われ、まっすぐで硬質なのが特徴である。

懐かしい佇まいを見せるこの地域も、町会長にお話を伺うと時代の流れとともに、地域のつながりが少し弱くなったような気がするという。自分たちは、地域の人々に育てられたという意識があるが、今はあまりそんな光景が見られず寂しいという。しかし、近く「10年後の飯川町を考える会」を発足させる予定で、次代を担う若者たちに自分たちのふるさとを盛り上げていってほしいと意気込みを語ってくれた。

先人たちが、大ケヤキを守りこの地域も守ってきたように、近い将来この地域を愛する人々が、さらに絆を深めて、ふるさとを守っていくことを願いたい。

IRODORI COLUMN

大ケヤキにまつわる民話 「飯川町の大ケヤキ」



その昔、いつからか大ケヤキに天狗がすむようになった。大ケヤキの前に七尾酒の元祖といわれる旧家があった。

ある年、真夜中にその家の酒蔵に何者が忍び込んでいるのを酒番が見つけた。クセモノは身の丈6尺ある大天狗だった。翌朝酒樽が空になっており、天狗のしわざだとわかった。不思議なことにその年は近年にない不作に見舞われた。その後、天狗が旧家に酒を飲みに来た年は、必ず不作になったという。

人々は、凶事の前兆だと恐れたようだ。そこで、村の人々は、しめ縄を飾って天狗の好きな酒を献上し、お出ましを防いだところ、天狗は現れなかったという。以後、このケヤキは村の繁栄の象徴となった。おしまい。

参考：ふるさと民話集「おじいちゃんのおはなしぶくろ」

周辺マップ

